

静岡県民の総氏神様

静岡縣護國神社

参拝のしおり



手水舎
(1枚岩をくり貫いたものでは日本一の大きさ)



献水碑
(日の丸を図柄したもの 県戦友協奉納)



招魂場
(鳥居は静岡聯隊ゆかりの岳南神社のもの)



慰霊標
(戦没・戦災死者を祀る 裏側が納骨堂)

一、諸祭事

- 慰霊祭 (随時)
 - 命日祭 (随時)
 - 結婚式 (随時)
 - 初宮詣 出生児の名づけ (生後十四日以内)
生後 男子 三十二日目
女子 三十三日目
 - 喰初詣 (生後男女共 百十日目 又は百二十日目
生後満一年)
 - 交通安全祭 (乗用車からトラックまでの車の清祓)
 - 厄除祈禱祭
 - 家内安全祈禱祭
 - 地鎮祭など出張祭典
- ▲ 右、お申し込みは護國神社々務所へ

静岡縣護國神社々務所

静岡市葵区柚木三六六番地

電話 (〇五四) 二六一〇四三五(代表)
FAX (〇五四) 二六一〇四三九





■ 献灯式

八月みたま祭に旧招魂社跡地にて
点火した火を神前に捧げる(県遺族会)



■ 万灯みたま祭

県下遺族、崇敬者より献灯1万7千余灯
8月13日～8月15日



■ 観桜会

桜の下で軍歌を唱う(英霊に捧げる)



■ 節分祭

年男、女による厄落としの豆撒き神事



■ 管弦祭(観月祭)

管弦の宴に巫女舞



■ 献水式

十月大祭前にふるさとより持参した水を
神前に捧げる(県遺族会)



■ お田植祭

早乙女による神事



■ 菖蒲祭
メダカ放流

端午の節句 健やかな成長を願う



■ 初宮詣

お宮参り 生後32日か33日目



■ 七五三詣(祝太鼓)

子供の成長を願う
(祝太鼓を自分の年令だけ打つ)



■ 七夕祭

七夕にあわせ、近隣の子供等を招いて執行



■ 大祓式

罪や穢れを祓い去る茅の輪神事



■ 厄祓い

災害が多い人や厄年に当たった人は
災いを福に転ずるためにお祓いをする



■ 車のお祓い

無事故を願う



■ 永代祭祀講社大祭

8月10日～12日まで永代祭祀講に
入会した方々を招待する

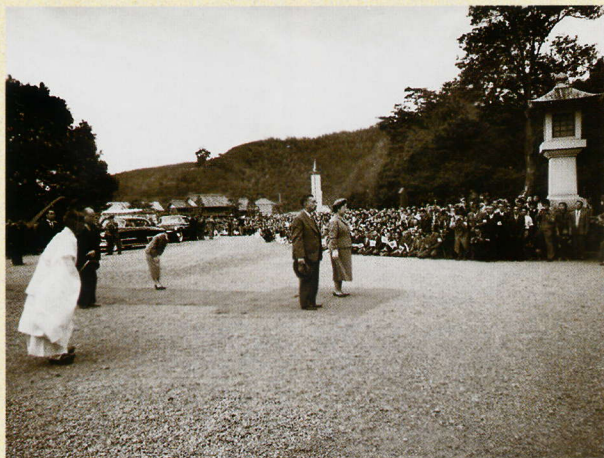


■ 祥月命日祭

毎月、土・日を選び斎行



桜花満開の御社頭（拝殿、本殿、左・右翼舎）



（昭和32年昭和天皇、皇后御参拝）

明治天皇御製

かぎりなき 世にのこさむと 国のため
たふれし人の 名をぞとどむる

一、御祭神

静岡県出身の明治戊辰の役以来大東亜戦争に殉ぜられた御神霊を奉斎
（七万六千余柱）

一、沿革

明治三十二年十一月十三日静岡市北番町に共祭招魂社として創建され、
小野田元熙知事が斎主となり明治維新より台湾の役までの殉国の
御霊五五四柱を鎮祭しましたのが始まりで、その後日露戦争、満州事変
より大東亜戦争に至るまでの戦没英霊を逐次合祀、護国の大神として
お祀り申し上げております。

昭和十四年四月静岡縣護國神社と改称し内務大臣より指定。

昭和十七年十月静岡市柚木の現社地に御造営、移転遷座した。

昭和二十一年二月神道指令により宗教法人として発足。昭和二十二年三月
静霊神社と改称し、昭和二十七年十二月宗教法人法による宗教法人として
知事の認証を受け登記。昭和二十八年四月再び静岡縣護國神社と改名し、
五月神社本庁別表神社に指定。昭和四十年八月、御社殿修築、昭和五十三年
社務所・遺品館新築、昭和五十六年静岡県神社庁特三等級神社となる。
平成元年昇殿廻廊新築、平成十年社殿全面改修する。平成二十年社務所
及び境内一部改修。

●天皇陛下幣帛料及幣饌料御奉納

昭和三十二年 十月二十五日 幣饌料御奉納（国体行幸啓）

昭和三十五年 十月 十日 幣帛料御奉納（合祀概了奉告祭）

昭和四十年 十月 十日 幣帛料御奉納（終戦二十周年臨時大祭）

昭和五十年 十月二十三日 幣帛料御奉納（終戦三十周年臨時大祭）

昭和六十年 十月二十三日 幣帛料御奉納（終戦四十周年臨時大祭）

平成六年 五月 十二日 幣饌料御奉納（臨時奉幣祭、県下行幸啓）

平成七年 十月二十三日 幣帛料御奉納（終戦五十周年臨時大祭）

平成十一年 六月 一日 幣饌料御奉納（臨時奉幣祭、県下行幸啓）

一、境内、十万余平方メートル
 (参方式千余坪)
 (内社背林苞万坪)

一、社殿、流造銅板葺



(空より) 谷津山の緑の中に建つ)

平成 十三年十一月 十三日 幣饌料御奉納 臨時奉幣祭、(県下行幸啓)
 平成 十五年 十月三十一日 幣饌料御奉納 臨時奉幣祭、(県下行幸啓)
 平成 十七年 十月二十三日 幣帛料御奉納(終戦六十周年臨時大祭)

●皇族御参拝

大正 十五年 一月 九日 山階宮武彦王殿下御参拝
 昭和 十八年 四月 四日 賀陽宮恒憲王殿下御参拝
 昭和 十八年 五月 十九日 賀陽宮妃敏子殿下、
 賀陽宮美智子女王殿下御参拝
 秩父宮妃勢津子殿下御参拝
 賀陽宮恒憲王殿下御参拝
 昭和 十九年 四月 十一日 賀陽宮恒憲王殿下御参拝
 昭和 十九年 十月 二十六日 朝香宮鳩彦王殿下御参拝
 昭和 二十八年 十月 九日 高松宮妃喜久子殿下御参拝
 昭和 三十二年 十月 二十五日 昭和天皇、皇后御参拝
 昭和 三十二年 十月 二十七日 秩父宮妃勢津子殿下御参拝
 昭和 五十五年 十月 五日 三笠宮崇仁親王殿下、
 三笠宮妃百合子殿下御参拝

一、主な祭典行事

一月 一日 歳旦祭
 一月 三日 元始祭
 二月 三日 節分祭
 二月 十一日 紀元祭
 二月 十七日 祈年祭
 三月 下旬 観桜会(桜の下で軍歌を唄う会)
 四月 四日 三四会合同慰霊祭
 (元静岡三十四聯隊戦友会)
 四月 中旬 慰霊標追悼式(静霊奉賛会)
 四月第四日曜日 日赤愛の灯碑慰霊祭
 四月二十九日 昭和祭
 五月 五日 菖蒲祭(祭典後メダカ放流)
 五月第一日曜日 拓魂奉賛会慰霊祭
 六月 上旬 お田植祭
 六月 三十日 大祓式(茅の輪くくり)
 七月第一土曜日 七夕祭
 八月 上旬 万灯みたま祭奉納弓道大会
 八月 上旬 万灯みたま祭奉納少年剣道大会
 八月 十日、十一日 永代祭祀講社大祭
 八月 十日、十一日 万灯みたま祭
 八月 十五日、十四日 万灯みたま祭

八月 十三日 献灯式(県遺族会)
 八月 十五日 英霊顕彰祭(崇敬奉賛会)
 九月秋分の日 泉五三二六会合同慰霊祭
 十月 上旬 抜穂祭及収穫奉告祭
 十月 上旬 大祭奉納弓道大会
 十月例祭前日 霊壘奉安祭
 十月二十二日 献水式(県遺族会)
 十月二十二日 管弦祭(観月祭)
 十月二十二日、二十三日 例祭(秋季慰霊大祭)
 十一月 三日 明治祭
 十一月 十五日 七五三祭
 十一月二十三日 新嘗祭
 十二月 十三日 御煤払祭
 十二月二十三日 天長祭
 十二月二十八日 餅搗き行事
 十二月三十一日 大祓式
 十二月三十一日 除夜祭
 毎日 日供祭
 毎日 夏午前五時
 毎日 冬午前六時 日始祭
 毎月 月次祭
 十三日 祥月命日祭(月三丁五回)

— 御 靈 驗 (身代り守護) —

御祭神は郷土の平和と繁栄を願いつつ、私共の身代りとなられた神霊であり、国難・家難・われわれの災禍を防いで下さい。皆様方の日々の暮らしのご繁栄とご安泰の諸祈願に御霊験あらたかであります。

(遺品館の一部)



(社務所・遺品館全景)